

大末建設、DXを推進するための自社独自のシステムである「DXS」を開発

大末建設株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 村尾和則、以下「大末建設」）は、ベトナムのIT企業最大手であるFPT社の協力のもと、自社独自のシステムである『DXS』（大末DXシステム）を開発し、2024年4月1日に全社本番運用を開始しました。

今後はDXSにより蓄積されたデータやDXSそのものを業務に利活用することで、自社のDXを更に加速させ、業務変革を進めていきます。

■背景

今般、建設業界を取り巻く環境については、働き方改革関連法への対応（2024年問題）や、極端な高齢化による就業者の減少（2025年問題）などによって、生産性向上に向けたDXが急速に進展しており、デジタル化・データ活用が企業の競争力に直結する時代となっております。

そこで、大末建設では、2024年2月に発表した新中長期経営計画「Road to 100th anniversary～飛躍への挑戦～」の中で、重要な挑戦の一つと位置付けた「経営基盤の次世代化」を推進するべく、全社的な業務調査及び分析を実施したうえで、自社の主たる業務機能を、営業、施工、経営の3領域に分類し、各業務プロセスのあるべき姿を定め、自社独自のシステム『DXS』を開発することを決定いたしました。

■『DXS』の構成について

DXSはクラウドサービスをベースとして構成されており、これまで全国に点在していた様々なデータをDXS内の統合データベースに一元的に格納し、案件情報取得から竣工までの様々なデータを一気通貫で管理できるプラットフォームとしております。そのプラットフォーム上に「営業DXS」、「施工DXS」、「経営DXS」の3つのメインシステムを構築しております。

■『DXS』の概要と期待される効果

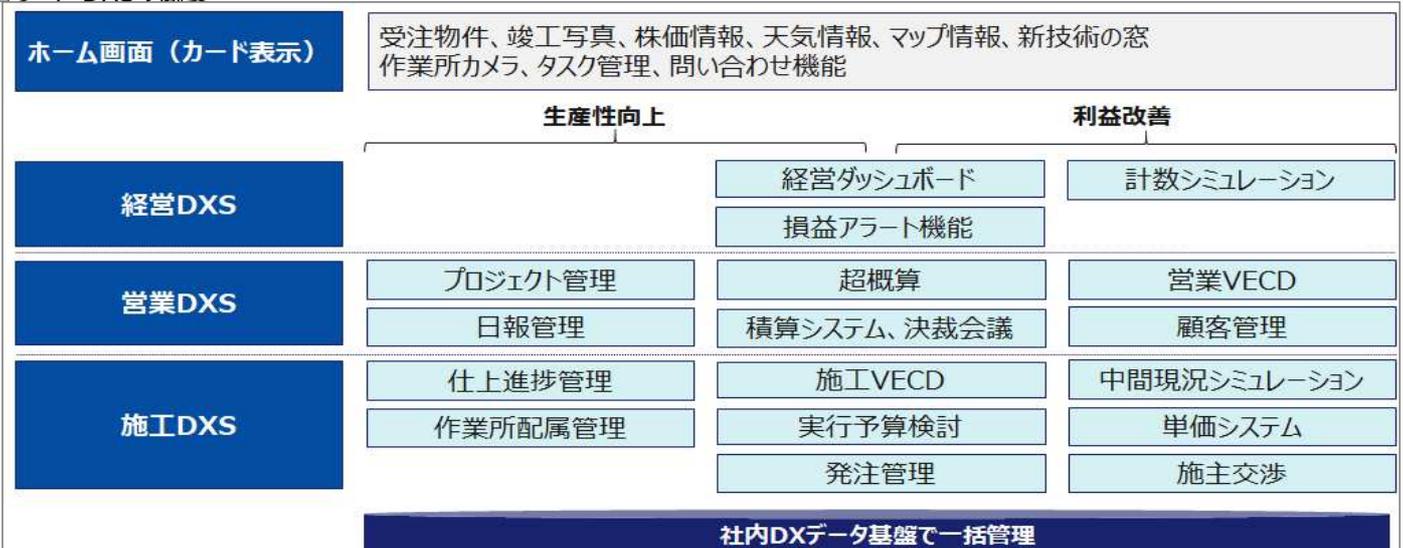
「営業DXS」は、営業プロセスにおける即時概算見積や、過去のVECD提案の実績を検索可能とすることで、プロジェクトの計画速度を速め、顧客からの特命比率の向上や受注時粗利益率の向上を図ります。

「施工DXS」は、施工プロセスにおける品質・工程・原価の統合的な管理や、施工におけるナレッジの蓄積と検索を可能とすることで、当社が手掛ける建物の価値をさらに向上させ、完工利益率の改善を図ります。

「経営DXS」は、経営管理プロセスにおける業績モニタリングや施工不具合の予見を可能とすることで、ミスによる利益逸失を防止し、利益最大化を図るのみならず、迅速で的確な適時開示を推進してまいります。

前述の3つのDXSを利用し、それぞれの業務プロセスを革新することで、収益性を向上しつつ、顧客や市場の満足度向上を図ります。

□参考 DXSの概要



□参考 DXSのホーム画面



＜本リリースに関するお問い合わせ先＞

■ 大末建設株式会社 DXシステム戦略部
 TEL : 03-5634-9050 E-mail: dai-info@daisue.co.jp